

旭丘授業デザイン

時間	学習活動・教師の手立て		めざす児童の姿
5分	課題をつかむ	- ゴールや学習活動の見通しを持たせるための工夫 - 実践 実物、体験、興味・関心をもとにした課題設定 - 必要感、学びごたえのある課題設定の手立て - 教材の視覚化、既習、学習計画の見える化	「なんでだろう？」 「どうしたら解決できそうかな。」 「…を使えば、できるかな。」 「今日の学習のゴールは…だね。」
5分	自分の考えをもつ	- 既習の活用 - 生活経験とのつながり - 教材文、資料、図等、根拠になるものを考えさせる	「Aだと思う。なぜなら…」 「～まではわかった。」 「文に…と書いてあるから、～だと思うな。」 ※ノート等に残す
25分	話し合う・深める	- 考え、根拠、理由を問う発問や、説明の内容を明確にするための問い返し - 個に応じた支援、声かけ - 思考を可視化するためのツールの活用 - 学習形態の工夫 - 目的や条件を明確にした話し合いの場の設定 - 実践 ねらいに迫るための思考を深める発問、問いかけ、問い返し	「～のところから…と考えたよ。」 「どうしてそう思ったの？」 「だって、〇〇だから▲▲ってことが言えると思うよ。」 「～のところもっと詳しく教えて。」 「なるほど！」 「そういう方法もあるね。」 「そういうのもいいね。」
キーワードの位置付け 国語…教材文の叙述 算数…既習事項、図・表・式、規則性 社会…写真やグラフ等の資料 理科…既習事項、実験や観察の結果、生活経験			
10分	適用する・まとめる・振り返る	- キーワードを使ってまとめさせる - ねらいや子どもの実態に合わせた適用問題 - わかったことのアウトプット - 観点、条件の設定	「今日のキーワードは□□だ！」 「授業の大事なところは…のところだね。」 「～の方法を使ってみたら自分でもできたよ。」 「次は…なことを調べてみたい。」